

男滝と女滝

侍にふさわしい滝

これら 2 本の滝は、男滝（雄・左側）と、女滝（雌・右側）として知られています。男滝は、隣の女滝よりも高さや幅において勝っています。1920 年代の木出し作業の写真からは、当時の男滝の高さが現在のほぼ倍の高さで、幅広く、その下部には深い滝壺があったことがわかります。

男滝は、日本の人気小説にも描かれています。吉川英治（1892 年～1962 年）の長編時代小説、『宮本武蔵』では、主人公が剣術の鍛錬に集中すべく、最愛の女性への情熱を抑えるために男滝の下に飛び込みます。

中山道の経路は、洪水や地すべりなどの自然災害に応じてしばしば変更されており、険しい山地を通り抜けるこの区間には特に当てはまっていました。現在では中山道の経路は男滝・女滝の上を通っていますが、江戸時代（1603 年～1868 年）後半にはこれらの滝の下を通っていたと考えられています。